令和８年度　古賀市立古賀東小学校　学校経営要綱

令和８年４月

１　本校の経営理念　～*教職員としての責任とやりがい*～

共に学び、共に未来を創る

公立の学校である古賀市立古賀東小学校の教職員は、公教育に携わる公務員であることを認識し、憲法、学習指導要領などの法令、古賀市が進める子どもの育ちと学びを支えるチルドレンファースト及び古賀市教育委員会が示す教育施策等が示すところにより、子ども一人一人に持続可能な社会と豊かな人生の創り手としての資質・能力を育成する。

また、本校はコミュニティ・スクールである。これを踏まえ、社会に開かれた教育課程の充実を図り、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という学校教育の意義を保護者及び地域住民と共有し、連携して自律・自立した古賀市民となれるように子どもを育成する。

そのために我々は、人権教育を軸として、子どもが将来の夢や目標の実現に向けて主体的に学びながら安心して学校生活を送ることができる学校づくりを推進する。また同時に、我々教職員も学び手の一人であると自覚しつつ教育活動を実践する。

技術革新に伴う急激な生活様式の変化、国際情勢の不安定化等の様々な社会事象からも明らかなように、未来はますます予測困難となっている。この現実に対して、持続可能な未来社会を実現できるかどうかは、今現在の学校教育にかかっているといっても過言ではない。

以上の認識に立ち、我々、古賀東小学校の教職員は、ここに掲げる理念のもと、その職責の重さを自覚しながら職務を遂行する。

２　本校の教育目標と目指す子ども像　～*チーム東小が育てる資質・能力*～

古賀東小学校の教育目標と目指す子ども像

『古賀東』を愛し、未来に向けて生き方をみがく子どもの育成

～わたしたちが学びの主人公～

○　こころをたがやす子　（徳）
○　からだをまもる子　（体）
○　とくいをふやす子　（知）
○　みんなでつくる子　（公）

本校は、昨年度より持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成を目指して新たな学校の教育目標を設定し、その達成に向けて教育活動を進めてきた。本年度も引き続きこの教育目標達成に向けて教育活動を進めていく。『古賀東』を愛し、未来社会に向けて」は、未来社会の創り手になるという子どもが学ぶ目的を表し、「生き方をみがく」とは、子どもが主体的な学び手として資質・能力を得て、つかいながら、確かに身に付けていく様を表す。

このことを踏まえた上で、本校は、教育目標達成の主体である子どもと、その達成に向けて指導、支援していく教職員が、目標の具体的なイメージを共有できるように、目指す子ども像（資質・能力）を徳、体、知及び公の４観点で設定する。具体的には、次の通りである。

○　こころをたがやす子（徳）

こころをたがやすとは、自分も他者もかけがえのない大切な存在であるという認識に立ち、人権感覚を高め、道徳的価値に向き合い、様々な場や状況においてよりよく生きるための行動を選択していくことである。自律・自立した個人として、また地域社会の形成者として必要な資質・能力であり、本校が目指す子ども像を支える基盤の一つをなす。

○　からだをまもる子（体）

からだをまもるとは、健康な身体や体力の維持・向上に努め、自分の体の変化に目を向けるとともに、防災、防犯という点も含めて自分自身を大切にする行動ができることである。こころをたがやす子の資質・能力とあわせて、自他の命を守り、健全に生きていくための資質・能力であり、本校が目指す子ども像を支えるもう一つの基盤をなす。

○　とくいをふやす子（知）

とくいをふやすとは、「こうありたい、こうなりたい、こうしたい」等の目的・目標をもち、その実現に向け知識及び技能と思考力・判断力・表現力等を主体的に粘り強く得ていくとともに、その学びを駆使して課題を解決した自分のよさを実感することである。中学校への進学も見据えて、自分が実現したい人生の可能性を広げる資質・能力である。

○　みんなでつくる子（公）

みんなでつくるとは、社会のために考え動く心のもと、よりよい学級、学年、学校及び校区ひいては子どものふるさと古賀市の実現に向けて課題を見出し、解決のための計画を立て、自他がもつ力を合わせて「もの・こと」を創り出すことである。持続可能な社会と豊かな人生を創っていくために必要な資質・能力である。

3　目指す教職員像　*～教育目標の達成を実現する教職員の姿～*

本校の教育目標を達成するのは、我々教職員一人一人であり教職員集団「チーム東小」である。我々は、公教育に携わる教職員として確固たる教育理念、決して不祥事を起こさない強い決意と倫理観をもちつつ、自らが社会の創り手として子どものモデルとなれるように努める。

また、我々がチームとなるための行動指針として「目的・目標に向かって励み合う」「互いを認めて尊重し合う」「悩みを共有してサポートする」「仲間のチャレンジを応援する」を掲げる。

以上を踏まえ、本校が目指す教職員像を設定する。

○　心を耕す教職員	人権感覚を磨きながら、謙虚に自分を見つめ、よりよく生きることの見方、考え方を更新し続ける教職員
○　体を守る教職員	生命の大切さを重く受け止め、自他の命を守り、健全に生きることを実践する教職員
○　得意を増やす教職員	教職における課題を見出し、必要な資質・能力を主体的に得ようと努めたり身に付けた資質・能力を発揮したりする教職員
○　みんなで創る教職員	多様な考えを認め、学び合いながら、東小の子どもの資質・能力を育むための新たな教育活動や学校文化を創り出す教職員

4　目指す学校像　*～古賀東小学校のブランド～*

我々が目指すのは、子ども、保護者、地域住民及び教職員にとって、魅力があり誇りに思える学校である。具体的には、次の学校を目指す。

○　「かわれる、わかる・できる、つくれる」自分を実現できる学校	【子どもにとって】
○　安全・安心な学校	【子ども、保護者にとって】
○　共に育てるためにかかわりたくなる学校	【保護者、地域住民にとって】
○　教職員としての働きがいと働きやすさがある学校	【教職員にとって】

5　教育課題・経営課題　～チーム東小が解決すべき内容～

（１）教育課題

【こころをたがやす子】
- 自分のよさを認め、自分に対する自信をもつ自己肯定感の向上

【からだをまもる子】
- 自分の体の発達や体力についての情報を分析し、体力や健康を維持、増進するための取組を決め、実践する資質・能力の育成

【とくいをふやす子】
- 自分の課題解決に必要な方法を選択し、自他の力を合わせて粘り強く取り組みながら確かに学びを獲得し、向上していく資質・能力の育成

【みんなでつくる子】
- 「もっと東小をよくするには」という視点で学校や自分たちの行動を見直し、積極的にアイデアを出し、実行する資質・能力の育成

（２）経営課題

【心を耕す教職員】
- 「感謝する、過ちを認める、他者を賞賛する」ができ、自分の良さを自覚できる指導、支援の具体化

【体を守る教職員】
- 主体的に自分の体の発達、体力の向上及び健康の維持増進を図ることができる実践の場の改善、設定

【得意を増やす教職員】
- 子どもに「主体的に確かな学力を得ていく学ぶ資質・能力の向上」を保障する授業改善の推進

【みんなで創る教職員】
- チーム担任制をはじめとする「複数の教師で一人の子どもをみる」ために必要な情報共有、評価の仕組みの確立

6　重点目標　～学校の教育目標達成に向けて本年度目指す子どもの姿～

必要な調整をしながら学ぶ子どもの育成

昨年度は、学びの主人公としてふるまう子どもの姿を次の４つで規定し、育成を目指した。

ア　目標を達成したり課題を解決したりするための方法を選ぶ。（R7重点）
イ　自分で必要な調整をしながら学びを得る。（R8重点）
ウ　自分の強みを発揮しつつ、他者の考えや力を受け入れながら最後まで取り組む。（R7重点）
エ　自分の学びや取組を振り返り、自他のよさを見つける。（R8重点）

その結果、①重点「ア」における自分で方法を選びながら学ぶ姿②重点「ウ」の姿③活動を通して見出した自他のよさや学びを認めたり伝えたりする姿として一定の成果が見られた。一方、①「活動の目標、相手、内容」等を根拠として学習の計画を立てること②「指導者からの助言」や「振り返りをもとにした自他の現状」を根拠として計画や問題解決の方法を調整すること③自ら「見える学力」の向上に取り組むこと、という３点が課題として考えられる。

そこで、本年度の重点目標を、成果と課題を踏まえ、各学年の発達段階に応じた「学びの主体者としてふるまう姿」のイ、エの観点を本年度の重点に設定して、教育活動を構想、実践していく。また、すべての教育活動において次の手立てをとる。

○　子どもと教師が、学習のはじめの段階で、①目標（資質・能力、学び方）②相手（※場合による）③内容（主たる活動や創作物等の本質や条件等）④方法（学習活動を進める際にとる具体的な手法）で可視化して共有する。
○　子どもが選択できるように、複数の資料、具体物及び支援等を準備する。
○　子どもが「いつでも、どこでも、どの教科・領域でも」場合によっては「他者のものでも」という点で記録（ログ）を振り返ることができるようにする。

7　経営の重点方策　～重点目標達成と教育課題・経営課題解決のための取組～

我々は、次の基本方針に則って重点方策に取り組む。

【東小はチームで育てる】
○　複数の教職員で一人の子どもを「みる」。
○　子どもにとっての最適解・納得解を考え続ける。
○　教職員と関係機関・職員相互の専門性が発揮できるように連携する。

［方策１：共通方策］

ア：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るＩＣＴを活用した教育活動の推進
イ：複数の教職員で一人の子どもを「みる」ためのチーム担任制による学年経営、学習指導

［方策２：こころをたがやす子を育む方策］

（１）他者や集団、社会とのよりよいかかわりの内容を重点とした人権教育、道徳教育の実践

ア：地域のひと、もの、ことを扱う生活科、総合的な学習、４年生し尿処理学習及び６年生社会科歴史学習を軸とした教科等横断的な学習による人権教育の展開
イ：①他者の思いや状況等を想像する活動②自分の生き方・考え方と学んだ道徳的価値をつなげて考える活動が位置づく道徳教育の展開
ウ：①子どもの良さを伝える場②子どもが自分の良さを振り返られる活動の計画的な設定

【方策３：からだをまもる子を育む方策】

（１）健康で丈夫な自分をつくる教科等と健康的行事の実践

ア：自他の生命を尊重する意思決定や行動選択ができることをねらう健康・安全教育の展開
イ：自分の体の様子や変化、運動能力の向上及び体力増進を実感できる「自分データ」のログ化とその活用

［方策４：とくいをふやす子を育む方策］

（１）主体的、対話的で深い学びのある授業への改善

ア：子どもが課題解決の方法（活動、支援、場、相手等）を適切に選択できるよう、子どもと共有できるレベルの言葉で学習の目標、相手、内容及び方法を可視化する授業実践

（２）確かな学力の向上を図る学習指導の実施

ア：四部位層で分析した子どもの実態に応じた習熟度別学習、課題別学習等の実施
イ：児童支援担当を中心とする全ての子どもが学びを止めないための学習支援体制の確立

［方策５：みんなでつくる子を育む方策］

（１）学びや取組を発表したり多様な人と交流したりする場がある教育活動の充実

ア：導入段階で具体的なゴールモデル①目標（・目的）②相手③発表・交流の内容④表現物、発表形式を子どもと教師が共有する活動構成による実践

（２）自分たちで学校環境を改善していく活動の工夫

ア：子どもが「よりよい学校、学年、学級にするために」の視点で取り組める教育活動の精選とカリキュラム・マネジメント

［方策６：目指す学校像、教職員像を実現する方策］

（１）教育課題、経営課題の解決に向けた研修（会議）の実施

ア：教育目標達成のための主体的、組織的に教育活動を推進する、研修・会議の実施
イ：管理職との面談を通し、キャリアステージに応じて計画する各種研修の積極的な受講
ウ：重点目標の達成、公教育に関わる今日的な課題解決及び福岡地区小学校国語教育研究大会糟屋大会の会場校としての機会を生かした授業改善を進める校内研修の推進

（２）安全、安心の学校を実現させる組織的な取組の推進

ア：「複数の教師で一人の子どもをみる」ための情報共有システムの確立
イ：生徒指導部を中心としたいじめ、不登校及び虐待等の諸問題の未然防止、早期発見、早期対応のための実態把握とその見取り及び教育相談・支援の組織的推進
ウ：特別支援教育校内委員会を中心とした、個別の教育支援計画・指導計画による学習プログラムの充実、教育的ニーズの把握と共有及び他関係機関・専門性のある外部人材との連携
エ：子どもの登校、心身の健康状況の把握と速やかな支援態勢確立のための ICT 活用の推進
オ：保健主事、養護教諭を中心とした学校環境の安全性の維持・能力と心身の健康を増進する取組
カ：他関係機関・専門性のある外部人材との連携
キ：命にかかわる個別の配慮事項の共有と緊急事態に適切に対応する態勢の確立

（３）学校、家庭、地域と共に育てる協働の教育活動の推進

ア：各ゲストティーチャー、ボランティアの方の思い、願いが反映する教育活動の工夫
イ：情報発信、オンラインによる指導・支援の工夫
ウ：学校での学びを家庭、地域で発揮し、学校で学び直す「学びのサイクル」の機会づくり
エ：古賀東小 PTCA、東小校区コミュニティ等の活動団体との連携

（４）評価システムを通した教育活動の確実な改善

ア：学年経営案を中心とした４つの子ども像を観点とする各教育活動の目標設定と評価、改善のサイクル化
イ：各種アンケート等の分析と検証の共有の効率的、効果的なサイクル化
ウ：学校保健委員会における、業務量の管理と教職員の健康確保に対する計画的、継続的な取組と具体的な改善策の策定

令和８年度　古賀市立古賀東小学校　コミュニティ・スクール構想図

経営理念：共に学び、共に未来を創る

学校の教育目標　『古賀東』を愛し、未来に向けて生き方をみがく子どもの育成

～私たちが学びの主人公～

地域

○ 地域社会の一員としての自覚をもち、学びをつかい、他者と協働しながらよりよい地域づくりにかかわる

●古賀東小PTCA、古賀東校区コミュニティが企画する事業
●地域主催の各種行事　●地域ゲスト・ティーチャーによる指導、支援

家庭

○ 社会生活で生きるマナー・モラル・ルールの基礎を知り、自分のことは自分でする習慣を身に付ける

●感謝　謝罪　承認　●早寝・早起き・朝ごはん　●家庭学習　●読書

こころをたがやす子	からだをまもる子	とくいをふやす子	みんなでつくる子
自分も他者もかけがえのない大切な存在であるという認識に立ち、人権感覚を高め、道徳的価値に向き合い、様々な場や状況においてよりよく生きるための行動をしていく姿	健康な身体や体力の維持・向上に努め、自分の体の変化に目を向けるとともに、防災、防犯という点も含めて自分自身を大切にする行動ができる姿	目的・目標をもち、その実現に向け知識及び技能と思考力・判断力・表現力等を主体的に粘り強く得ていくとともに、その学びを駆使して課題を解決した自分のよさを実感する姿	社会のために考え動く心のもと、よりよい学校やふるさとの実現に向けて課題を見出し、解決のための計画を立て、自他がもつ力を合わせて「もの・こと」を創り出す姿

本年度の重点　必要な調整をしながら学ぶ子どもの育成

重点方策１	○ ＩＣＴを活用した教育活動の推進と教育環境の整備 ○ チーム担任制による学年経営、学習指導
重点方策２	○ し尿処理学習、歴史学習を軸とした教科等横断的な学習による人権教育の展開 ○ ①想像する活動②学んだ道徳的価値をつなげて考える活動が位置付く道徳教育の展開 ○ ①子どもの良さを伝える場②子どもが自分の良さを振り返られる活動の設定
重点方策３	○ 自他の生命を尊重する意思決定や行動選択ができることをねらう健康・安全教育の展開 ○ 自分の体の様子や運動能力の向上等を実感できる「自分データ」のログ化とその活用
重点方策４	○ 子どもと共有できるレベルの言葉で学習の目標、相手、内容、方法を可視化する授業実践 ○ 子どもの実態に応じた習熟度別学習、課題別学習等の実施 ○ 全ての子どもの学びを止めないための学習支援体制の確立
重点方策５	○ 導入段階で具体的なゴールモデルを子どもと教師が共有する活動構成による実践 ○ 子どもが「よりよい学校、学年、学級にするために」の視点で取り組める教育活動の展開
重点方策６	○ 教育目標達成やキャリアステージに応じた資質・能力向上を図る研修の充実 ○ 複数の教師で一人の子どもを「みる」情報共有システムの確立と専門機関と連携した課題解決 ○ 家庭、PTCA、ボランティアと学校でつくる「学びのサイクル」を通した教育活動の実践 ○ 各教育活動の目標設定と評価、改善のサイクル化

古賀東校区コミュニティと共にあるチルドレンファーストの学校